

1人、2個、3匹のように日本では単位がものによって違う理由

名前 吉澤 瑛人 学生番号 23b01527
東京工業大学理学院

1. はじめに

日本語では、ものを数える時に1人、2個、3匹などその呼ぶものによって単位を変えている。一方、英語ではものを数える際、one,twoなどものによって変えない。そこで私のリサーチクエスチョンは、ものを数える時に多様な単位は必要か。その必要性を考察する。

2. 方法

まず、数人に「ものを数える時に多様な単位が必要かどうか」というアンケートを取り、その単位の必要性を考える。また必要だと言った人にその理由を尋ねる。

3. 結果

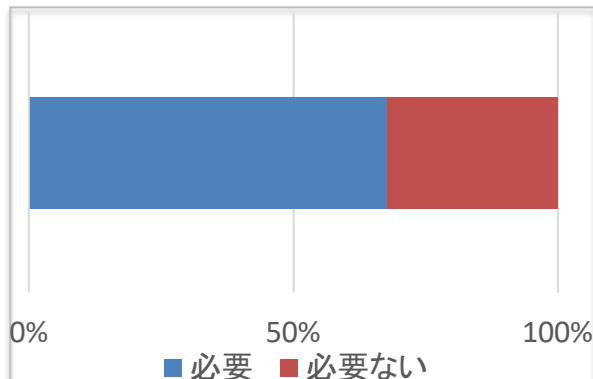


図1:ものを数える時に多様な単位が必要かどうか

必要だと答えた人が19人、必要ないと答えた人が9人いた。必要だと答えた人が必要ないと答えた人の約二倍ほどいた。

○必要な理由

- ・単位が分かれていた方がわかりやすい
- ・「1!」、や「2!」などと言うと文が途切れてつながらない

4. 考察

図1の結果より、ものを数える時には多様な単位が必要だと感じている人の方が多かった。その理由として特にあがったのが、物の単位がない場合わかりにくいという意見だ。文献によれば、日本語のような数え方のシステムを持つ言語は東アジアに多いが、それらの言語の特徴として、冠詞がないことや名詞の複数形がないこと、名詞のジェンダーがないことが挙げられる。日本語には名詞に冠詞や複数形、ジェンダーがないことで楽なようにも感じるが、名詞に含まれる情報が少なくなる。そこで単位を用いると名詞のイメージがより付くようになり文や会話がわかりやすくなるのではないか。例えば、「1匹の犬」と言う場合と、「一頭の犬」と言う場合では、1匹と言うより一頭と言う方が大きい犬を想像するだろう。「一台のテレビ」というより「一枚のテレビ」という方が薄くて高級な感じが伝わる。このように、日本語の多様な単位には、そのものの特徴や、名詞だけでは伝わらないイメージを想像させる働きがあると考えられる。

5. おわりに

今回私は、1人、2個、3匹のように日本では単位がものによって違う理由について考え、その単位が必要かどうかアンケートを取り考察した。私は図1のアンケートを取るまで、ものを数える時に多様な単位は別になくても良いと考えていたが、数人の意見や文献から、日本語の多様な単位の必要性を学んだ。単位があることで、日本語は少し読みやすくなっているのだ。

文献: 飯田朝子 (2005) 数え方でみがく日本語 ちくまプリマー新書